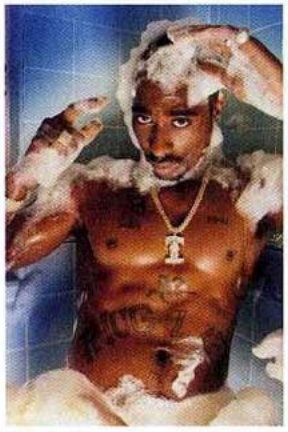
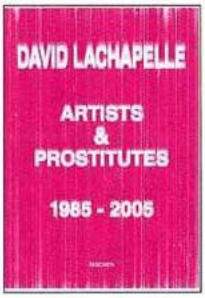
PROFILE●デヴィッド・ラシャペル監督
1969年、米・コネチカット州生まれ。ノースキャロライナのアートスクールを卒業後、18歳で単身NYに渡る。アンディー・ウォーホールのもとで『インタビュー』誌のカメラマンの仕事に就くと、ミュージシャン、俳優、スポーツ選手など多くのセレブ達を撮り話題に。その後プラダ、ゴルティエなど有名ブランドの写真も撮る一方で、PVも手がけるようになる。クリスティーナ・アギレラ『Dirty』のPVはMTVのAll Time Best Sexy賞を受賞。
彼が手がけたPV、CM、ポートレートはwww.davidlachapelle.comで自由に閲覧が可能だ。





↑『David LaChapelle, Artists & Prostitutes』06年4月発売予定。28万3500円（税込み）。直筆サイン入り、全世界限定2500部。彼の集大成となる1冊。www.taschen.com

だ。人生と愛のエネルギーが、そこには満ちてたんだよね」

――あなた自身が心の底から欲していたものはなんだった？　彼らを撮りながら、なにが見えてきたの？

「実はね、キミがさっきから言ってることは、間違いじゃなくてね……この映画にとりかかる前の僕は、そうだな数年前ぐらいから、なにかもっと深いものを求め続けていたっていうのがあったんだ。写真＝スチールっていうのは限界があって、セレブだろうがなんだろうが、一生懸命そこにストーリーを持たせるようなものを撮ったところで、やっぱりどうしても伝えられない、伝わらないってものを感じていてね。つまりその頃の自分ていうのは、もっとストーリーを的確に、丁寧に伝えたいっていう欲求が強くなってたんだよ」

――もしかしたら、あなたは映画監督にこそ、なりたかったの？　どーしても写真が撮りたかった人物の発言とは思えないなー、ハッハハハッ。

「ハッハハハハッ、たぶん。心の奥底では、映画監督にこそなりたかったんだと思う、それは小学生の頃から。だって裏庭で友達と毎日のように自作のお芝居をやって、僕は演出を担当してたしね、ハッハハッ、絵や写真は高校から専門の授業があって、そこで学ぶうちに、なんか自分はアーティストになるんだろうなって漠然と感じてはいたけど……だからかな、高校出てNYに行くと、なぜかすぐに写真を撮り始めてて。これも、直感で動いたに過ぎないけど」

――で、いまこうして映画監督になり、映画を撮れたことで、100％満足したと言える？

「もちろんだよ!!　写真を始め、そこからPVも撮るようになって、ようやく、こうして映画を撮って……こんなにも自分の気持ちを満足させられる仕事はない！　って思ってる。自分の頭の中で描いたストーリーを、そのままに近い形で表現できて、それは多くの人により理解できるものとなったはずでもあるからね。もっと言えば、この映画ができたことは、奇跡に近く、まさに夢が叶ったって感じなんだよね」

――こういう映画こそ、作りたかったから？　こういう人々こそあなたは撮り、描きたかったから？

「そういうこと!!!!　映画の中のダンサー達は、ハリウッドで揶揄（ヒニク）することなんて到底できない、真のヒーロー達だから。貧困や抑圧、そういうネガティブなものを使って、美しく、そして新しいものを生み出している。本当に素晴らしいし、感動的だよ、彼らの姿はね。これ以上に心を動かされる人に出会えない限り、僕は写真も映画も撮る気はない。もはやね」

©David LaChapelle